

一朝の礼拝から 1—

キリシタン大名のそれぞれ

ヨハネによる福音書 13章 36～38節

キリスト教が伝わった 16 世紀、入信した日本人には戦国大名もいましたが、キリシタン大名はさまざまでした。第 1 号の大村純忠^{おおむらすみただ}は島原の有力大名有馬氏の子で、その援助をあてに迎えられた、いわば取引銀行からの出向役員のような立場でした。まわりには有馬氏以外にも有力大名がいるので、「純忠なんか追い出せ」という家臣が現れます。困った彼は、教会からの支援をあてに入信し長崎を教会に寄進しました。その子の喜前^{よしあき}は、江戸幕府との間の領地争いで教会が幕府有利な仲介をしたことに怒り、キリシタンをやめて逆に弾圧を始めました。とあるキリシタン史の研究者によれば、キリシタン大名で真面目に信仰していたのは高山右近^{たかやまうこん}だけ。他には黒田如水^{くろだじよすい}が、まあ真面目な方だったそうです。福岡藩黒田氏の藩祖です。

右近は大阪 高槻の大名で、勇猛果敢、城造りもうまく他の大名に尊敬され、彼が熱心に勧めるので入信した者もいました。豊臣秀吉がキリシタン弾圧を始めて彼に棄教を命じると、断って大名の地位を捨て、後にマニラに追放されて亡くなります。もっとも当時の日本の仏教は複数の宗派に属するのが当たり前で、キリスト教も仏教の一派と思われていました。「キリシタン宗にも入ってみるか」と入信して、禁教令が出たらさっさとやめる大名がいたのも当然です。如水は秀吉の側近でしたが、キリシタンを弁護するのでその怒りを買ったとされます。彼が亡くなると仏式に先立ち教会による葬儀が行われました。彼は自分の信仰と黒田家の信仰を分けていたようで、福岡藩はキリシタンをやめ幕末まで続きます。小西行長は堺の商人出身で、同じく秀吉の側近として活躍しました。関ヶ原の戦いに敗れ処刑される時、キリシタンとして死んでいます。こうしたキリシタン大名の誰に共感するかを考えてみるのも、自分の信仰をふり返るきっかけになるかもしれませんね。

細井 浩志 (国際文化学科)

一朝の礼拝から 2—

与えられた出会いを通して

フィリピの信徒への手紙 1 章 9～11 節

わたしは 20 年近く前にこの活水女子大学を卒業しました。今回は中学 3 年生の長崎での研修旅行のために参りました。わたしたち、清和学園の中学生、高校生の研修旅行の目的は、建学の精神である「平和を創り出す」者となるための学びです。思い出作りではなく、平和を創るために考える人になるために行われます。

今日、外海地区を見学させていただくにあたり、連絡を取ったのが、私が大学 3 年生の時に入学してきた 2 つ下の後輩でした。出会いは、宝です。大学時代に彼女と一緒に過ごした期間は 2 年間でしたが、卒業して 20 年近く経つ今、中学生のみなさんと一緒に長崎を訪ねる時の大きな力となりました。

わたしたちは、本当にたくさんの人に出会い、人生を歩んでいきます。その時に、いいな、と思った出会いもあれば、これはちょっと…という出会いがあるかもしれません。でも、どの出会いが、いつの日の自分を支える材料になるか、わたしたちにはわかりません。しかし、その 1 つ 1 つがわたしたちの中で大切な出会いとなるのです。

わたしたちは日々学ぶことを求められています。それは、わたしたちの愛がますます豊かになるためです。そして、そのことが、わたしたち一人ひとりをありのままに受けとめ、生かしてくださっている神さまを、わたしたちの周りの人たちに知らせるものになるといいます。多くの出会いと学びを得るために、わたしたちは高知から長崎の地に来ました。それは、大学で日々過ごしている学生のみなさんや先生方も同じことでしょう。今日という 1 日が与えられていることに感謝するとともに、今日の 1 日も、たくさん、心と体を動かして、しっかり学ぶ 1 日としましょう。

三浦 真菜 (清和女子中学高等学校教頭 2004 年度本学音楽学部卒業生)